

平成23年3月3日

## 平成22年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）

### 被表彰者の決定について

文化庁では、このたび、平成22年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）の被表彰者を決定しましたので、お知らせいたします。

1. 表彰の概要                   文化芸術の力により、市民参加で地域の活性化に取り組み、特に顕著な成果をあげている市区町村に対し、文化庁長官が表彰する。

2. 被表彰数                   5件6自治体

- ・水戸市（茨城県）
- ・十日町市・津南町（新潟県）
- ・南砺市（富山県）
- ・木曾町（長野県）
- ・神戸市（兵庫県）

（お問い合わせ）

文化庁長官官房政策課

課長補佐 山下 登（内線2804）

担当係長 木村 守平（内線2806）

電話 03-5253-4111（代表）

03-6734-2806（直通）

平成22年度 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)表彰名簿

市町名	活 動 内 容
<p>みと 水戸市 (茨城県)</p>	<p>水戸市が取り組む文化振興の分野は幅広いが、とりわけ、1990年の「水戸芸術館」オープンにあたっては、中心市街地の活性化も視野に入れ、市総予算の1%を管理運営に充てるといふ、画期的な取組で臨んだ。昨今自治体の文化予算が激減するなかにあつて、一貫した運営方針のもと、音楽・演劇・美術各分野で事業を丁寧継続している。館運営にあたっては、芸術監督制の導入をはじめとする民間専門家の積極的な登用、「座付き」の専属芸術団体の結成など、自治体の新たな取組として全国への波及につながつた。</p> <p>また、国外からも高く評価されてきた活動は、歴史的な文化財産の多い観光都市水戸に、未来的で研ぎ澄まされた新たなイメージをもたらすとともに、芸術文化を市民の手に届きやすい身近な存在にしてきた実績がある。水戸芸術館が実施するプログラムでは、野外での水戸室内管弦楽団大スクリーンコンサートや専属劇団の小学校訪問公演、そして地元の作家・団体と共催する「カフェ・イン・水戸」など、館内だけでなくまちなかにも出ていくものや市民参加型企画にも力を入れている。近隣のアーティストスペースとの協働にも取り組んでおり、各分野の学芸員によるユニークで創造的なプログラムを目指して市外からも多くの人が足を運ぶようになった。</p> <p>水戸のランドマークとして定着したアートタワーのもと、芝生でくつろいだり、結婚式をあげたり、ミュージアムショップやカフェを楽しんだり、市民たちの憩いの場所にもなっている。</p>
<p>とおかまち 十日町市 ・ つなん 津南町 (新潟県)</p>	<p>「越後妻有アートネックレス整備事業」は、平成6年に新潟県が始めた新たな広域地域づくりプロジェクト「ニューにいがた里創プラン」に基づき、越後妻有地域全体の振興を図るため、県と6市町村の連携のもとに実施された地域プロジェクトであり、市町村合併後は、十日町市と津南町で引き続き事業を推進している。</p> <p>その中核的事業として「大地の芸術祭(越後妻有アートトリエンナーレ)」を企画し、まつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」、越後松之山「森の学校」キョロロ、光の館、越後妻有交流館「キナーレ」という4つの交流拠点施設がアーティストの参画のもとに整備された。また、過疎、高齢化、新潟県中越地震によって空き家となった民家や廃校となった学校をアート作品として再生する「空家・廃校プロジェクト」により多数の作品が作られ、その後も維持・活用されている。</p> <p>アーティストが他人の土地に作品を作らざるを得ないことから、アーティストの熱意が住民を動かし、住民たちも協働者として作品に関わるようになった。また、都会からも多くの若者がボランティアとして参加するなど、さまざまな協働者たちをつなぎ、地域づくりへと循環するためのNPO法人も発足。大地の芸術祭からは、里山アート観光はもちろん、グッズ開発など様々な活動が生まれている。</p>
<p>なんと 南砺市 (富山県)</p>	<p>平成16年に8つの町村(城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町)が合併し、「南砺市」となった。平成7年にユネスコ世界遺産に登録された「五箇山の合掌造り集落」をはじめ、平家の落人の哀愁を奏でる「麦屋節」や、中世田楽から派生した「こきりこ」などの「五箇山民謡」など、香り高い歴史・文化遺産には、多くの人が訪れる。さらには、世界の演劇人が集う「利賀フェスティバル」や、4年に一度世界の木彫家が集う「井波国際木彫刻キャンプ」、五穀豊穡を祈って行われる「福光ねつおくり七夕祭り」、スティールドラムの音色がまちに溢れるワールドミュージックの祭典「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」などを開催、伝統文化を継承すると同時に、新たな世界の文化も積極的に取り入れ、地域振興が図られている。</p> <p>平成18年3月には、全国初の『芸術特区』として、「演劇の利賀」として国際的に知られる利賀芸術公園で、これまでの実績を活かし、国際的な舞台芸術人材育成事業を中心とした「舞台芸術特区TOGA」構想により、世界一流の舞台芸術家が集う舞台芸術の拠点づくりに取り組み、『富山から世界に発信する芸術文化の振興』を図っている。</p>

平成22年度 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)表彰名簿

市町名	活 動 内 容
<p>きそ 木曾町 (長野県)</p>	<p>地元のクラシック愛好家達が、ナマの音楽を聴く機会に恵まれない木曾に「自分たちで、演奏家を呼んで、演奏してもらおう」と呼びかけ木曾フィルハーモニック協会が発足、昭和50年にはビオラ奏者の最高峰として世界に知られるウィリアム・プロムローズ氏を招聘し、若手演奏家に対する公開レッスンや木曾福島の小学校講堂での演奏会と、小さな町での音楽祭がスタートし、現在は町・地元住民・演奏家が一体となって、手作りの音楽祭として独特の雰囲気醸し、36周年を迎える。</p> <p>また、農山村の危機的な状況の中、将来の地域づくりとものづくりのための人材養成を目指し、平成16年に「木曾学研究所」を立ち上げた。先人達が脈々と培い築いてきた生活、文化、伝統、技術、知識を振り返ることから、その地域にあった真のまちづくりができるものとしており、木曾学部門とものづくり部門の他、木曾学文化芸術振興事業を推進。水墨画や太鼓のワークショップ、ジャズ演奏などを通じて若い世代の参加を進めている。さらに、「日本で最も美しい村」連合(39町村)に加盟し、失ったら二度と取り戻せない農山村の景観や環境文化を守るとともに、地元の伝統文化(木曾漆器、食材など)を学校教育に取り入れる試みを行っている。</p>
<p>こうべ 神戸市 (兵庫県)</p>	<p>神戸市は平成16年末に「文化創生都市」を宣言し、震災10年を機に芸術文化を活かしていきいきと進化するまちづくりを目指すことを内外に発信。平成19年から、具体的な取り組みとして芸術文化の祭典「神戸ビエンナーレ」を開催し、現代アートだけでなく、パフォーマンス、伝統芸術、デザイン、ファッションなど多種多様な芸術文化を取り上げるとともに、まちの資源の再活用、賑わいづくりや活性化に努めている。平成22年には、旧神戸生糸検査所で、アーティスト、デザイナーや市民が自由に提案を持ち寄り、コンテンポラリーダンスや現代アートの作品展示、デザインイベントなど多様な創造的活動を展開した。現在は、この場を平成24年度に「(仮称)デザイン・クリエイティブセンターKOB E」として開設するため、改修工事をすすめている。</p> <p>また、ユネスコが提唱する創造都市ネットワークのデザイン分野への登録の認定以降、ユネスコデザイン創造都市フォーラムなど、ユネスコのネットワークに加盟する都市のリーダーやクリエイターとの交流を推進し、デザイン分野の都市による初の共同事業、国際ポスターデザインコンペティションを実現させ、ユネスコ本部から高い評価を得るなど、グローバルな視野と草の根に根差したローカルな視点での活動を推進している。</p>

平成22年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）

選考会議選考委員名簿

熊倉 純子 東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科准教授

後藤 和子 埼玉大学経済学部教授

佐々木雅幸 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授

田村 孝子 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」館長

蓮池 奈緒子 NPOアートネットワーク・ジャパン事務局長

吉本 光宏 (株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室長

若林 朋子 (社)企業メセナ協議会シニア・プログラム・オフィサー